

# 夜間景観実態調査結果

(令和7年度第1回広島市景観審議会夜間景観検討部会後追加調査)

広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係

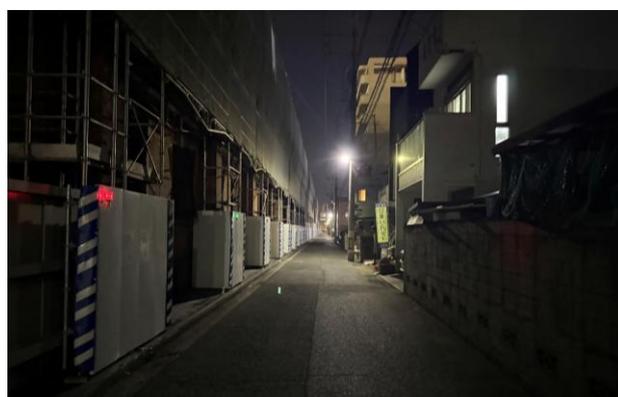
## 特徴

旧広島陸軍被服支廠は、南区出汐にある被爆建物。

大正3年(1914年)に竣工し、陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造・貯蔵を担う施設として使用されていたが、被爆直後は、被爆者の臨時救護所として使用され、戦後は学校の教室や運送会社の倉庫として活用されていた。

現存する4棟のうち3棟を広島県が、1棟を国(中国財務局所管)が所有しており、2024年に全4棟が国の重要文化財に指定されたことを受け、現在、耐震改修工事が行われている。

なお、建物は閑静な住宅地に囲まれており、周囲の道路は住民の生活道路になっている。



## 考察

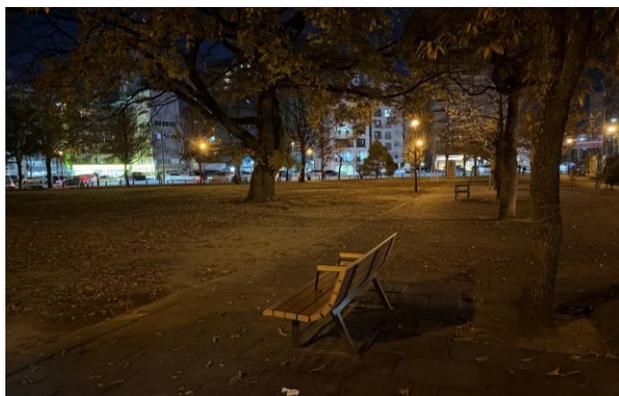
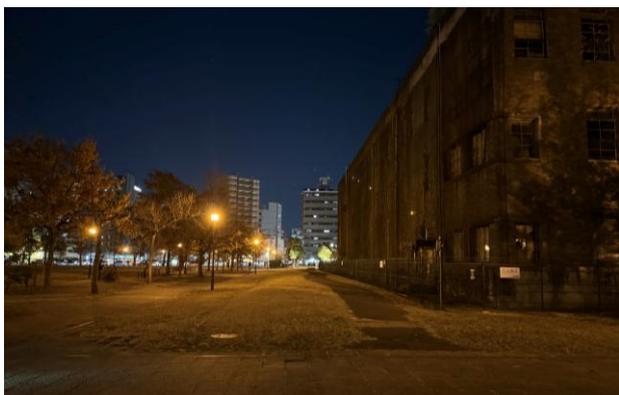
耐震改修工事中であったことと今後活用検討されていく段階であることから、現状建物自体のライトアップは行われていない。

細街路を挟んで住宅地に面していることから、ライトアップ等を行う場合は周辺への配慮が必要である。

## 特徴

広島大学旧理学部1号館は、中区千田町にある被爆建物。

昭和6年（1931年）に広島文理科大学校舎として竣工し、爆心地から1,420mで被爆。外郭を残して全焼したが、翌年9月から講義を本格的に再開し、昭和24年（1949年）5月には広島大学に包括され、理学部校舎として使用されることになった。かつての学都広島としての歴史を象徴する建物であり、被爆建物でもあることを踏まえ、「知の拠点」にふさわしい保存・活用を行うこととしている。



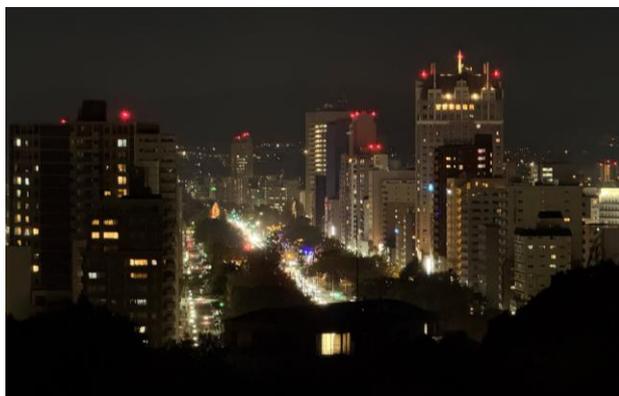
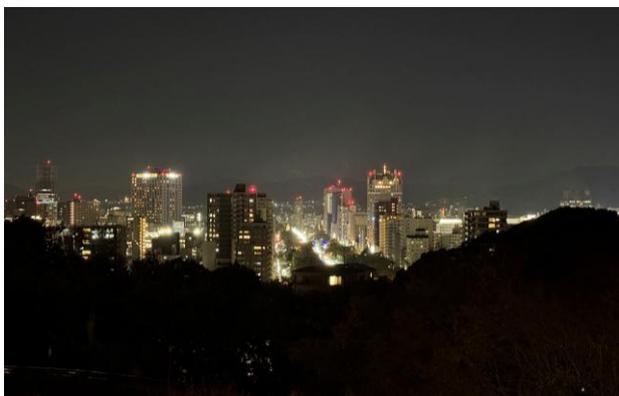
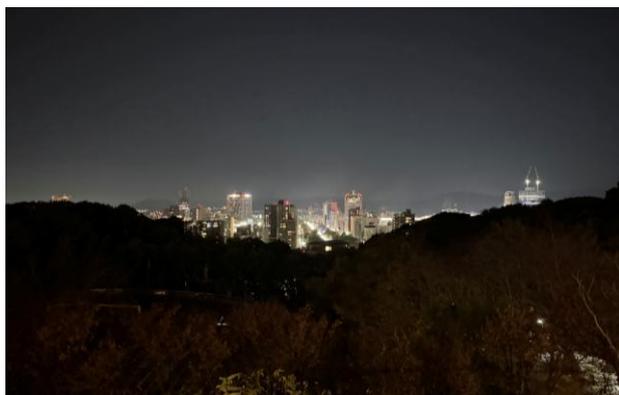
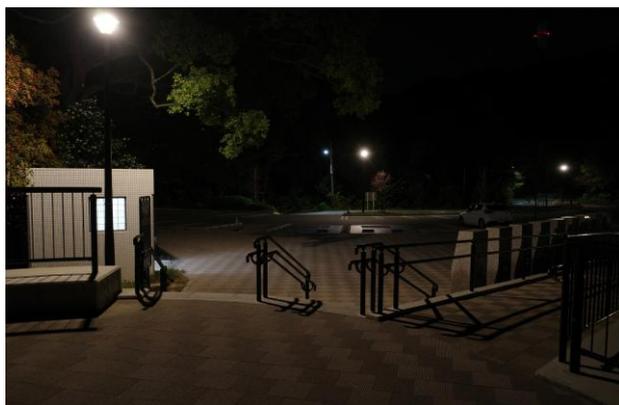
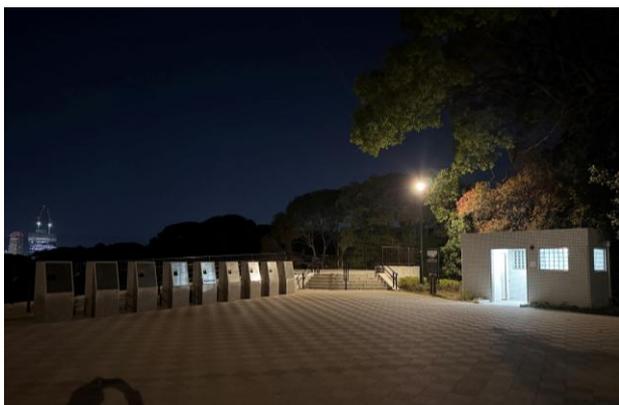
## 考察

隣接する東千田公園とともに屋外照明は温かみのある電球色のあかりが整備されている。旧理学部1号館の建物自体のライトアップは行われていない。

## 特徴

南区の比治山公園は、古くから桜の名所であり、現代美術館等の文化施設を有するとともに、公園の隣接地には、戦没者の遺骨が葬られた陸軍墓地や被爆建物である頼山陽文徳殿がある。こうした歴史的価値や立地特性を踏まえ、平成29年3月に策定した「比治山公園『平和の丘』基本計画」に基づき、現在、段階的に再整備を進めている。

令和5年度に竣工したピースメッセージ広場にある展望台からは平和大通りが一望できる。



## 考察

視点場としては、温かみのある電球色のあかりにより、良好な環境が整備されている。

夜間も平和大通りを一望できるが、現状は道路上の車両照明しか確認できない。（調査時は広島ドリミネーションの開催期間中であつたが、高台からその様子は樹木に隠れてあまり確認できなかった。）

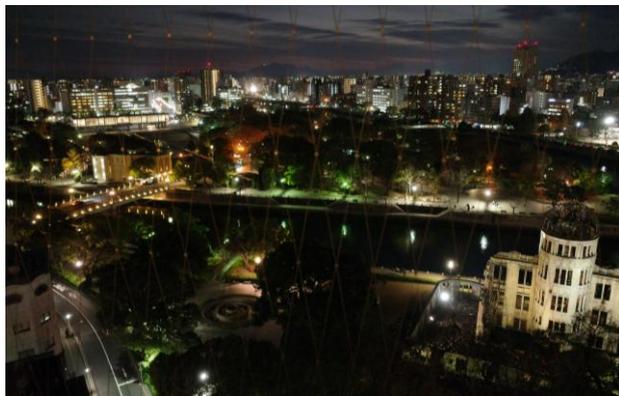
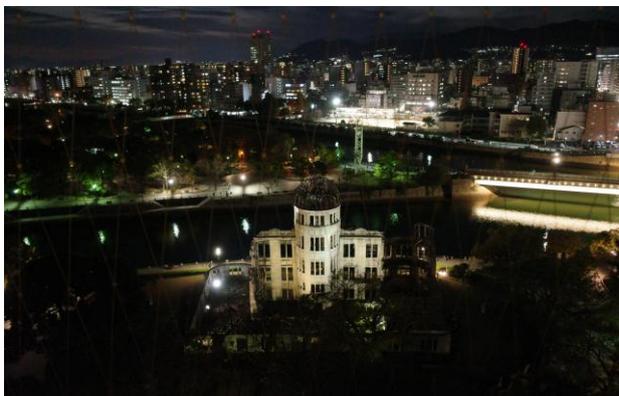
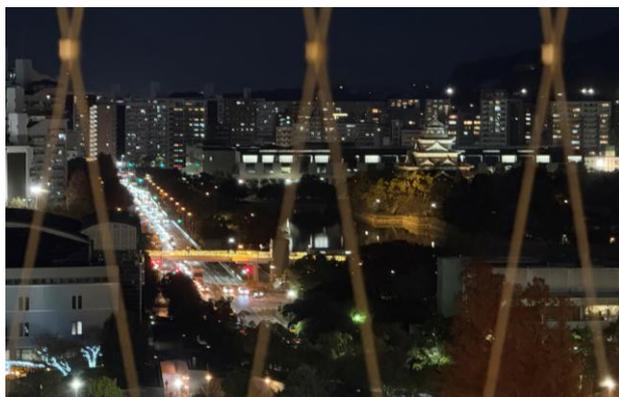
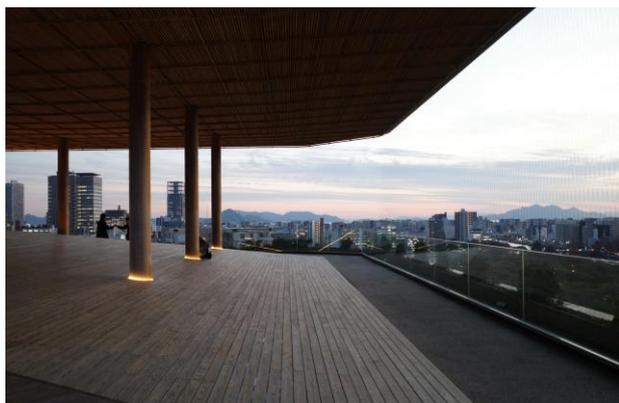
今後取り組む平和大通りの夜間景観形成については、こうした高台からの夜景も意識した検討が求められる。

## 特徴

中区大手町、原爆ドームに隣接する貸事務所兼商業施設。

既存建物を改修し、平成28年(2016年)9月に竣工。

最上階には有料展望台があり、市内中心部、特に平和記念公園や中央公園が一望できる。



## 考察

視点場としては、間接照明により厳かな雰囲気演出され、床面に付けられたつま先下りの傾斜により夜でもくつろぎながら景色を眺められる居心地の良い環境がつけられている。

こうした近傍の高台から望む視点場もあることから、平和記念公園における夜間景観を検討する際には、平和記念資料館から原爆ドームを望む南北軸を意識した照明検討も求められる。